

少子化に関する国際意識調査について

先進諸国において少子化は共通する問題であり、その背景にある要素や各国の少子化対策について比較分析し、我が国の特性を把握するために、5年ごとに国際意識調査を実施している。

2015（平成27）年度は、日本と、欧州3か国のフランス、スウェーデン、イギリスの20歳から49歳までの男女を対象に「交際」、「結婚」、「出産」、「育児」、「ワーク・ライフ・バランス」等に関する意識について調査を行った。

各国における2014（平成26）年の合計特殊出生率をみると、フランス（1.98）、スウェーデン（1.88）、イギリス（1.81）と、いずれも人口置換水準に近く、一方で日本は1.42にとどまっている。過去に少子化状態を経験した各国が、現在の出生率回復基調に至っていることから、今後の日本の少子化対策の参考としたい。

2010（平成22）年の国立社会保障・人

口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」によると、日本ではいずれは結婚しようとする未婚者の割合は、男性86.3%、女性89.4%と依然として高い水準で推移している。一方、未婚率は男女ともに上昇しており、2010年の総務省「国勢調査」によると、年齢別未婚率は、男性では、25～29歳で71.8%、30～34歳で47.3%、女性で、25～29歳で60.3%、30～34歳で34.5%となっている。

○恋愛に関する考え方（図1）

恋愛に関する考えについて聞いたところ、日本では、「交際することで人生が豊かになる」（42.8%）が最も高く、「交際をすると相手との結婚を考える」（42.7%）もほぼ同率である。次いで「相手からアプローチがあれば考える」（34.9%）が続いている。

欧州各国の結果を比較すると、各国とも「交際することで人生が豊かになる」がフラ

図1 恋愛に対する姿勢（複数回答）

	恋愛よりも勉強や仕事を優先したい	恋愛よりも趣味を優先したい	交際をする相手との結婚を考える	それほど好きではない人とも恋愛や交際してもかまわない	いつも恋愛をしたい	気になる相手には自分から積極的にアプローチをする	相手からアプローチがあれば考える	交際することで人生が豊かになる	恋愛は面倒だと感じる	恋愛することに自信がない	恋愛はしたいが、お金がかかる	その他	わからない
日本 (754人)	5 19.2	18.8	2 42.7	5.8	10.9	4 20.0	3 34.9	1 42.8	12.7	7.7	10.9	0.3	2.7
フランス (715人)	4 18.9	8.4	3 26.4	11.0	29.8	5 15.8	2 8.4	1 61.3	1.4	7.8	3.1	1.1	4.2
スウェーデン (700人)	14.0	8.9	3 32.9	5 21.9	20.0	2 37.3	4 25.7	1 91.3	17.1	1.3	3.0	1.6	0.1
イギリス (729人)	5 10.4	1.8	3 24.8	3.4	30.7	4 13.9	2 10.0	1 44.0	4.4	8.1	8.8	1.2	4.5

※現在、配偶者や交際相手のいる方は、いないと仮定して回答

ンス (61.3%)、スウェーデン (91.3%)、イギリス (44.0%) と最も高いが、特にスウェーデンでは9割以上となっている。また、日本は「気になる相手には自分から積極的にアプローチをする」(20.0%) より「相手からアプローチがあれば考える」(34.9%) が高く、受け身の姿勢が強い。

○交際相手との出会いの機会 (図2)

各国とも「友人に紹介を頼む」が最も高い。欧州各国では「婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する」の割合が、フランス (24.5%)、スウェーデン (48.9%)、イ

ギリス (30.3%) と高くなっているが、日本では7.0%にすぎない。

○結婚生活について不安に感じること (図3)

日本では「結婚生活にかかるお金」(37.3%)、「お互いの親の介護」(35.9%)、「お互いの親族との付き合い」(32.6%) の順となっている。

フランスでは「二人の相性」(41.4%)、イギリスでも「二人の相性」(34.4%)、スウェーデンでは「二人の間で起こる問題の解決」(35.4%) がそれぞれもっとも高く、日本の不安材料との違いがある。

図2 交際相手とどのような出会いの機会があるとよいか (複数回答)

	友人に紹介を頼む	職場の同僚や先輩に紹介を頼む	合コンやパーティに行く	婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する	趣味のサークルに入る	資格取得やスキルアップのための学校に通う	親や親戚に紹介を頼む	交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する(有料・無料を問わない)	その他	特に何もしない	わからない
日本 (754人)	1 58.0	3 38.1	4 30.8	7.0	2 39.1	5 14.6	4.5	4.5	0.3	9.3	0.8
フランス (715人)	1 31.2	5 11.5	2 30.8	3 24.5	4 18.7	2.8	2.7	2.1	1.7	32.3	1.5
スウェーデン (700人)	1 69.9	5 40.4	3 43.1	2 48.9	4 42.4	22.7	3.9	1.7	3.9	4.4	0.6
イギリス (729人)	1 52.4	5 16.5	4 17.8	2 30.3	3 20.6	7.0	10.2	7.7	7.8	15.9	2.3

※現在、配偶者や交際相手のいる方は、いないと仮定して回答

図3 結婚生活について不安に感じること (複数回答)

	二人の相性	二人の間で起こる問題の解決	お互いの親族との付き合い	お互いの親の介護	お互いの前の配偶者やパートナーとの子供への向き合い方	結婚生活にかかるお金	雇用が安定していない	自分の自由の制約	子供の育て方	子供の教育	子供ができない可能性	その他	特になし	わからない
日本 (754人)	21.6	5 23.6	3 32.6	2 35.9	12.5	1 37.3	10.1	18.3	4 24.8	23.5	5.0	-	8.9	0.5
フランス (715人)	1 41.4	2 33.4	4 23.9	8.7	15.1	5 23.5	17.2	23.2	3 26.7	13.8	6.2	0.7	16.2	0.7
スウェーデン (700人)	2 26.7	1 35.4	4 16.1	13.1	13.6	9.3	8.7	3 17.7	5 15.0	8.6	8.7	2.1	26.4	0.6
イギリス (729人)	1 34.4	2 25.2	4 18.4	6.0	8.6	3 23.3	8.4	17.0	5 17.1	10.4	4.1	1.5	28.4	0.8

※同棲している方は、同棲・パートナーとの生活について回答

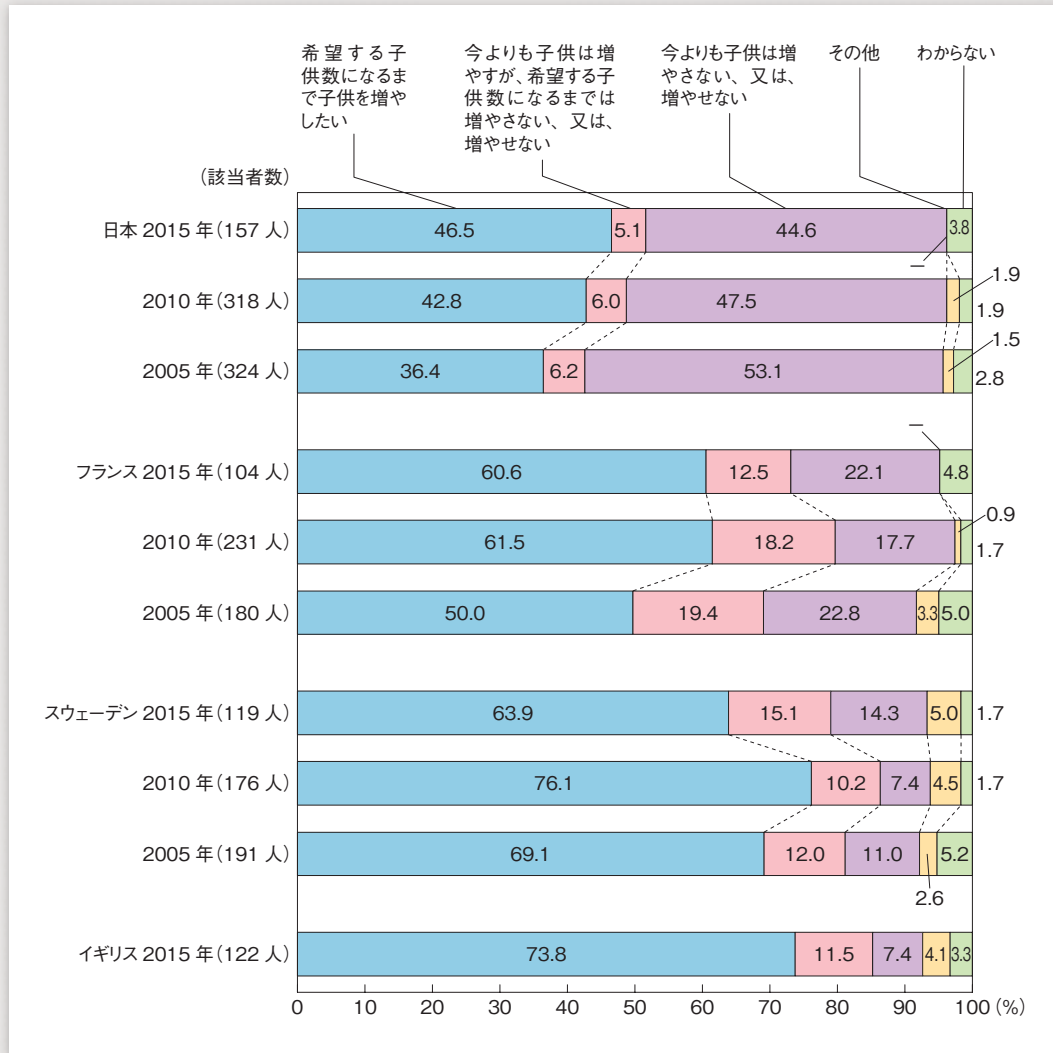
○希望する子供数になるまで、子供を増やしたいか (図4)

日本では「希望する子供数になるまで子供

を増やしたい」が46.5%と微増している。欧州各国は6割を超えている。

図4

希望する子供数になるまで子供を増やしたいか
(欲しい子供の数よりも、実際の子供の数が少ない人)



○子育てをして良かったと思うこと (図5)

日本は「家庭が明るくなる」(72.9%)、「子育てを通じて自分も精神的に成長する」(62.7%)、「生活にはりあいができる」「子育てを通じて自分の視野が広がる」(いずれも52.8%)と続く。

欧州各国の結果は、「家庭が明るくなる」が最も高いのがフランス(67.3%)、イギリス(73.9%)で、スウェーデンは「子育てを通じて自分も精神的に成長する」が79.9%と最も高い。

図5 子育てをしていて、良かったと思うこと (複数回答)

	家庭が明るくなる	身近な人が子供と接して喜ぶ	生活にはりあいができる	子育てを通じて友人が増える	子育てを通じて自分の視野が広がる	子育てを通じて自分も精神的に成長する	夫婦の愛情がより深まる	その他	良いと思うことは特にない	わからない
日本 (754人)	1 72.9	25.1	3 52.8	5 30.2	3 52.8	2 62.7	27.9	0.3	0.1	3.8
フランス (715人)	1 67.3	24.6	2 58.6	11.2	4 40.8	3 50.1	5 28.1	0.3	4.3	0.8
スウェーデン (700人)	2 72.6	5 52.6	3 59.3	29.1	4 53.7	1 79.9	37.4	1.1	0.3	3.0
イギリス (729人)	1 73.9	20.6	2 53.9	21.5	5 34.4	3 43.8	4 39.1	0.4	3.4	3.7

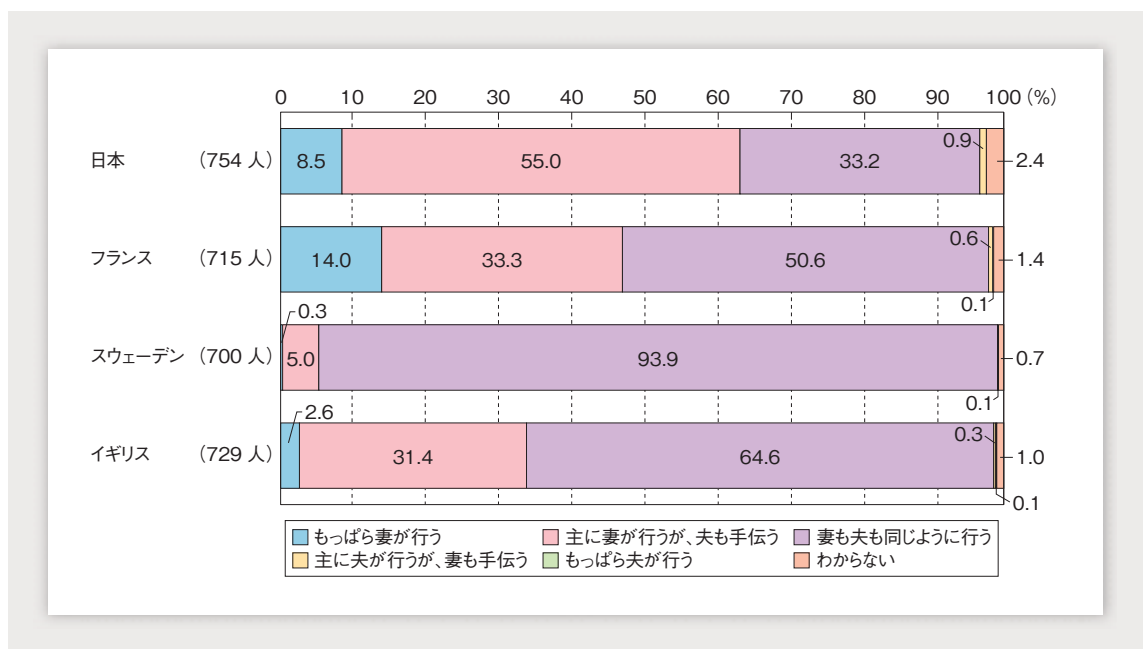
※お子さんがいない方は、仮に自分が子育てをする場合を想定して回答

○育児を担う者 (図6)

小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割についての考えを聞いたところ、日本では「主に妻が行うが、夫も手伝う」が55.0%で過半数を占める。

各国の結果を比較すると、日本以外の国では「妻も夫も同じように行く」の割合が5割を超えており、スウェーデンは93.9%と特に高くなっている。

図6 育児における妻・夫の役割 (就学前の子供の育児) (単一回答)



○女性の理想のライフコース (図7)

女性に育児と仕事との関係で、理想の生き方を聞いたところ、日本では「出産するが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」が

55.3%で最も高く、欧州各国もフランス(35.9%)、スウェーデン(60.2%)、イギリス(36.5%)と最も高い。

図7 育児と仕事との関係で、理想の生き方〈女性〉(単一回答)

	結婚も出産もせず、働き続ける	出産しないで働き続ける	出産するが、子供の成長に関係なく働き続ける	出産するが、子供の成長に応じて働き方を変えていく	出産を機に、いったん退職するが、子供の手が離れたら働く	出産退職後は、育児に専念する	出産の有無に関係なく、結婚後は働かない	その他	わからない
日本 (418人)	2.4	1.4	12.7	55.3	18.9	6.0	2.4	—	1.0
フランス (373人)	4.8	3.5	18.5	35.9	28.2	3.2	3.8	—	2.1
スウェーデン (342人)	4.4	3.2	19.6	60.2	10.5	—	—	1.2	0.9
イギリス (378人)	2.4	2.9	24.6	36.5	24.6	5.6	0.5	0.5	2.4